

日本気象学会

昭和61年度秋季大会

会期：昭和61年11月5日(水)，6日(木)，7日(金)

会場：愛知厚生年金会館(名古屋市千種区池下町 2-63)

目 次

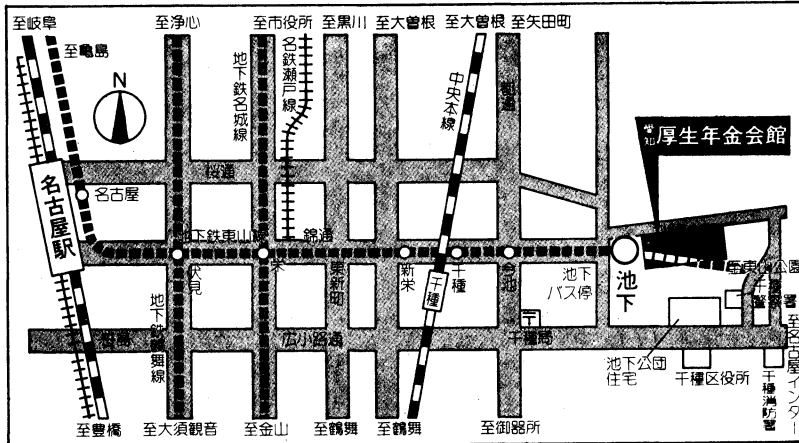
大会行事予定表	475
会場案内	476
研究発表内容一覧表	477
シンポジウム内容	477
研究発表題目	478~484

大会行事予定

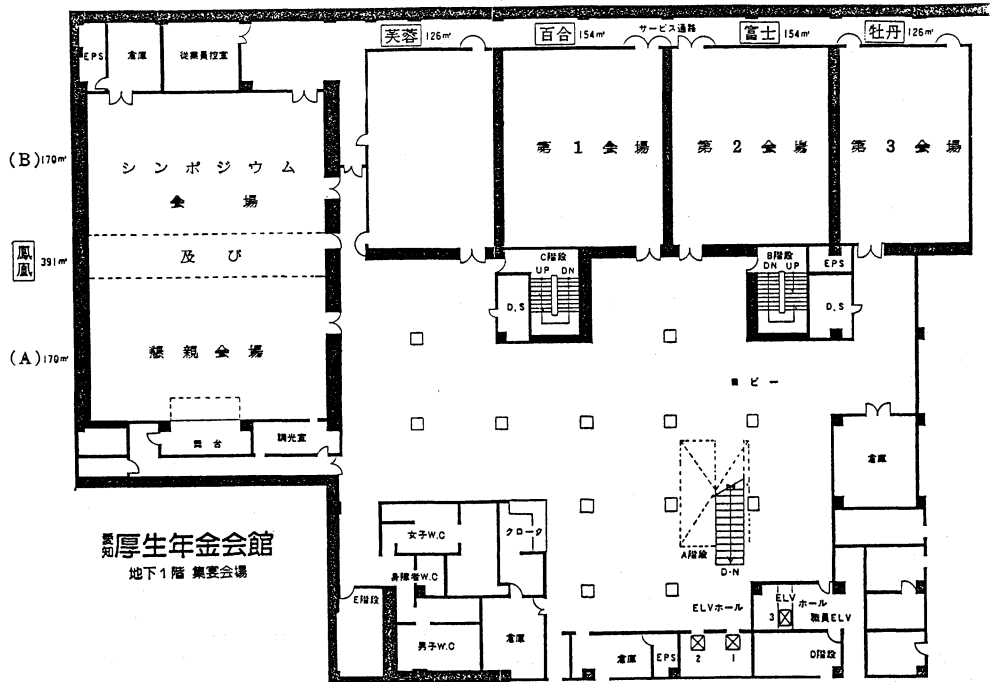
1. 会場：愛知厚生年金会館 (TEL. 052-761-4181)
 - 第1会場 (地下1階, 百合)
 - 第2会場 (地下1階, 富士)
 - 第3会場 (地下1階, 牡丹)
 - シンポジウム (地下1階, 鳳凰)
2. 会期：11月5日(水)，6日(木)，7日(金)
3. 行事

行事		
大会 (研究発表)	(第1, 2, 3会場)	11月5日(水) 9:00~12:30 13:30~17:00
大会 (研究発表)	(第1, 2, 3会場)	11月6日(木) 9:00~12:00
理事長あいさつ, 日本気象学会奨励金贈呈式	(地下1階, 鳳凰)	13:00~13:30
山本賞授与, 授賞記念講演		13:30~14:20
シンポジウム		14:30~17:00
懇親会		18:00~
大会 (研究発表)	(第1, 2, 3会場)	11月7日(金) 9:00~12:30 13:30~17:00

愛知 厚生年金会館 ご案内図



交通 ● 地下鉄山線「地下」駅下車 ● 市バス(幹線)新線④ 千種区「地下」駅下車
住所 名古屋市千種区地下町2-63(地下鉄地下駅に隣接) ☎(052)761-4181



南極圏の気象——第6回会合——のお知らせ

日時 昭和61年11月4日(火) 17:00~19:00
場所 名古屋地方気象台会議室(地下鉄東山線本山駅から徒歩5分)
テーマ 「雪氷圏と大気圏の相互作用」
話題提供 (1) 野田 彰・時岡達志(気象研究所): 1月の大気大循環におよぼす南極大陸の影響(数値実験)
(2) 大畑哲夫(名大水圏研): 雪氷面の大気におよぼす熱的影響(観測および数値実験)
(3) 安成哲三・森永由紀(筑波地球科学): 北半球の雪氷面積と大気大循環(解析)
総合討論 (司会: 樋口啓二) 連絡先: 安成哲三, 筑波地球科学 TEL. 0298 (53) 4399

昭和 61 年度 秋季 大会

(): 講演番号, — — : 座長

		第 1 会 場	第 2 会 場	第 3 会 場
11月 5 日 (水)	9:00~ 12:30	エクマン境界層 (101~105) 局地循環 (I) (106~113) —萩野谷成徳—	雲物理・積雲対流 (I) (201~210) —山下 晃—	熱帯・台風 (301~314) —安成哲三—
	13:30~ 17:00	局地循環 (II) (114~126) —新野 宏—	雲物理・積雲対流 (II) (211~224) —武田喬男—	力学 (315~320) —神沢 博— 中層大気 (321~329) —佐藤康雄—
11月 6 日 (木)	9:00~ 12:00	大気汚染 (127~136) —鶴田治雄—	エアロゾル (225~233) —笹野泰弘—	大気大循環 (330~341) —野田 彰—
	13:00~ 13:30	理事長あいさつ, 日本気象学会奨励金贈呈式 山本賞授与, 授賞記念講演 シンポジウム } 地下 1 階, 鳳凰		
	13:30~ 14:20			
14:30~ 17:00				
11月 7 日 (金)	9:00~ 12:30	接地境界層 (137~149) —岩谷祥美—	総観規模現象 (234~241) 中小規模現象 (I) (242~246) —下山紀夫—	大気化学 (342~355) —広瀬勝己—
	13:30~ 17:00	気候 (150~164) —福山 薫—	中小規模現象 (II) (247~260) —栗原和夫—	放射 (356~361) —内山明博— 測器・応用 (362~367) —岩坂泰信—

注) 大会参加費 会員 1,000円, 学生会員 500円, 一般 1,500円

シンポジウム「黄砂」

1. 日 時 大会第 2 日 (11月 6 日)
2. 会 場 鳳凰
3. 座 長 高木増美 (名古屋大学)
4. 話題提供者
村山信彦 (衛星センター): 黄砂の舞い上がりとその輸送
岩坂泰信 (名古屋大学): 黄砂粒子の輸送と輸送途中で見られる物理・化学的变化
荒生公雄 (長崎大学): 日射観測からみた黄砂
5. コメンター
中島映至 (東北大学): 黄砂粒子の放射特性
田中豊顕 (気象研究所): 氷晶核としての黄砂粒子

講演発表者へのお知らせ

1. 第 1, 第 2, 第 3 会場ともオーバーヘッド・プロジェクター使用可能です。
2. 講演時間は質疑を含めて 12 分程度です。スライド標準枚数は 6~8 枚です。
3. スライドのマウントに番号をつけ, 上下を揃えて下さい。

研究発表題目

大会第1日(11月5日)9時00分~12時30分

(*印は発表者)

第1会場 エクマン境界層

座長 萩野谷 成 徳

101. 菊地時夫(高知大・理): 南極の内陸高原に発生する波状雲について
102. 森 征洋(香川大・教育): 日本における風の平均場と平均気圧場との関係について
103. 蒲生 稔(公資研): 関東平野の混合層(その2)
104. *花房龍男・藤谷徳之助(気研・物理): 大気境界層におけるエネルギー方程式の各項の高度変化について
105. *沢井哲滋(気研・予報), 柳沢善次(元気研), 石原正仁(気研・台風): 釧路地方の海霧の観測, 再説

局地循環 (I)

座長 萩野谷 成 徳

106. 大和田道雄(愛教大・地理): 名古屋市における Heat Island の時間的・空間的分布
107. 藤部文昭(気研・予報): 平日と休日の都市気温差
108. 水間満郎(京大・原子炉): 泉南地域における海陸風の観測(VI)―夜間低層ジェット流と関連して―
109. 森 一正(気研・予報): 紀伊水道沿岸域における海陸風
110. *中根英昭・笹野泰弘(国公研): 海風前線の水平・鉛直構造の時間変化に関するレーザーレーダー観測
111. 鶴田治雄(横浜市公害研), *西川 敦(愛媛大・農), 宇田川 満・早福正孝・伊藤政志(東京都環境科学研): 海風前線の微細構造―ランドサットよりみたマイクロスケールの構造―
112. 新野 宏(気研・物理): 海陸風循環の線形論
113. *北田 敏廣・松浦洋司(豊橋技科大), 小原利美(東京都): 海風前線に伴う拡散場の変化― $k-\epsilon$ 乱流モデルによる―

第2会場 雲物理・積雲対流 (I)

座長 山下 晃

201. *菊地勝弘・上田 博・谷口 恭(北大・理), 佐藤昇(大阪府科学教育センター), 桜井兼市(北教大・旭川), 梶川正弘(秋田大): 低温型雪結晶について

202. *清 忠師・河村伸治・権田武彦(東理大・理工): 融点近くで気相から成長する氷晶の晶癖変化とその機構
203. *松田光平・山下 晃・小西啓之(大教大): 雪結晶の成長と風との関係, 実験その2
204. *高橋庸哉・福田矩彦(Univ. of Utah): Common plastics と solvents を使った雪結晶のレプリカ
205. 桜井兼市(北教大・旭川), 梶川正弘(秋田大), 菊地勝弘(北大・理): カナダ北部における低温型雪結晶及びエアロゾルの観測(I)―雪結晶中の核物質のSEM-EDX 解析―
206. *杉本敦子・樋口敬二(名大・水圏研): 1つの降雪雲からの降雪の $\delta^{18}O$ 値と δD 値の関係について
207. 竹内利雄(名大・空電研): Active Lightning Location System について
208. 秋山裕美子・升田充代・松崎美雪・和久井幸子・*北川信一郎(東京家政大): 関東及び日本海沿岸における雷日数の経年変化
209. 石坂 隆(名大・水圏研), Hobbs, P.V.(ワシントン大学): 生成セルに伴う降水粒子の成長について
210. *梶川正弘(秋田大・教育), 桜井兼市(北教大・旭川), 菊地勝弘(北大・理): 厳冬のカナダ北極域における過冷却雨滴の特徴

第3会場 熱帯・台風

座長 安成 哲三

301. 児玉安正・浅井富雄(東大・海洋研): 南半球寒候期における SPCZ 西部の雲量分布とその変動(1985年の事例解析)
302. 西 憲敬(京大・理): 高度場に現れる赤道域の季節内変動
303. *栗原弘一・露木 義(気象庁・長期予報): 夏期に日本付近で発達する亜熱帯高気圧の生成維持機構(2)―OLR と北半球循環場との一点相関(序報)―
304. 鬼頭昭雄(気研・予報): MRI・GCM-I の10日周期変動と夏のモンスーン
305. 新田 勲(気研): 熱帯西部太平洋の海面水温変動

と亜熱帯高気圧

306. 新田 勳 (気研) : 熱帯対流圏擾乱の年々変動
 307. 丸山健人・常岡好枝 (気研・予報), 元木敏博 (衛星センター) : 衛星雲風データに見られる 30~50 日周期振動の年々変動
 308. *宮崎保彦・田中康夫・松林繁樹 (気象庁・長期予報) : El Niño Event と日本の月平均気温との関係について
 309. SANGA-NGOIE KAZADI (京大・理) : Modifying the Optimum Interpolation Scheme for

the tropical large-scale fields.

310. 宮原三郎(九大・理), 林 良一(GFDL/NOAA) : 赤道付近に局在する東進加熱に対する大気の応答
 311. 宮原三郎 (九大・理) : 40日振動の単純な model
 312. 住 明正 (東大・理) : 東西に一樣な海面水温を持つ熱帯海洋での積雲群の振まい
 313. 山岬正紀 (気研・台風) : 鉛直シア一中の熱帯低気圧の数値実験
 314. *岩崎俊樹・中野 尚・杉 正人 (気象庁・数値予報) : 台風進路予報モデルの開発 II

大会第 1 日 (11月 5 日) 13時30分~17時00分

第 1 会場 局地循環 (II)

座長 新野 宏

114. *高橋俊二・白崎航一・木村富士男・小林隆久・小出 孝・里村雄彦・三上正男 (気研・応用) : 内陸山地における局地風観測 (I)
 115. *木村竜治 (東大・海洋研), 中西幹郎 (日本気象協会) : 本州中央部の局地風系—AMeDASの統計解析
 116. 近藤裕昭(公資研) : 局地循環シミュレーションによる複雑地形域の風系予測とその限界について (その 1)
 117. 近藤純正・*大草直子 (東北大・理) : 盆地の地形と夜間冷却および局地高気圧の強さとの関係 II
 118. 田中正昭 (京大・防災研) : 夜間盆地上空の安定層に発生するプロッキング現象について
 119. 佐藤 威 (東北大・理) : 斜面・谷の夜間冷却と冷気流の相互作用 (2)
 120. 近藤純正・*桑形恒男・川中敦子 他「会津盆地観測グループ」(東北大・理) : 盆地状地形における昇温過程 会津盆地観測 (1)
 121. 近藤純正・*萩野谷成徳・桑形恒男 他「会津盆地観測グループ」(東北大・理) : 盆地における夜間の熱輸送過程
 122. 安田延壽(気大) : 平らな斜面上の定常滑降流のバルク・モデル
 123. *石川信敬・児玉裕二(北大・低温研), G. Wendler (アラスカ大) : 南極アデリーランドにおける境界層観測 (序報)
 124. *児玉裕二・石川信敬(北大・低温研), G. Wendler (アラスカ大) : 南極アデリーランドにおける地表風の特性

125. 井上治郎(京大・防災研) : 南極氷床の斜面下降風のスケール
 126. 真木太一 (四国農試・土地利用部) : 赤外放射温度計による局地温度分布の測定

第 2 会場 雲物理・積雲対流 (II)

座長 武田 喬 男

211. 田中正之・*西澤慶一 (東北大・理) : 前線雲の形成に及ぼす赤外放射の影響
 212. *村上正隆・中山 嵩・植村八郎 (気研・物理) : 温暖前線に伴う降水雲の内部構造の観測 (その 1)
 213. 植村八郎 (気研・物理) : 冬季東シナ海域の混合層とその中に出現する雲について
 214. *上田 博(北大・理), Dusan S. Zrnica' (NSSL) : 1 台のドップラーレーダーでみられたガストフロントの微細構造
 215. 椎野純一 (気研・台風) : 豪雨をもたらす対流雲群の組織化に関する数値実験
 216. *中島健介(東大・理), 高橋 勲(ハワイ大), 松野太郎(東大・理) : Ice Phase (氷晶・雪片・あられ) を含む雲物理過程の Bulk-Parameterization の構成
 217. *疋田尚志 (北大・環境), 菊地勝弘・遊馬芳雄 (北大・理), 元木敏博(衛星センター) : GMS から見た日本海北部の冬季の雲の特徴
 218. *坪木和久・藤吉康志・遠藤辰雄・若濱五郎 (北大・低温研) : 冬季季節風下の陸風による降雪域の集中機構
 219. *上田 博・城岡竜一・菊地勝弘 (北大・理) : しゅう雪に伴う下降流に関する研究 (I)—地上気象解析—
 220. *城岡竜一・上田 博・加藤聖治・菊地勝弘(北大・

理)：しゅう雪に伴う下降流に関する研究(Ⅱ)
—レーダーエコーと地上気温—

221. *小西啓之(大阪教育大), 遠藤辰雄(北大・低温研)：降雪の地上観測とレーダー観測の比較
222. *遊馬芳雄・菊地勝弘(北大・理), 中平治(北大・環)：石狩湾上の降雪雲のレーダー・エコーからみた特徴Ⅱ(Radar Echo ClimatologyⅡ)
223. 遠藤辰雄(北大・低温研)：1983年2月26日に札幌全域に降った大雪に関する事例解析—Ⅱ
224. *八木鶴平・真木雅之(防災センター・筑波)：盆地降雪のレーダー観測Ⅴ—小さな対流性エコーの軌跡—

第3会場 力学

座長 神 沢 博

315. 高橋正明(九大・理)：WAVE-CISKメカニズムについての再考察
316. 木村竜治(東大・海洋研)：レーリー・テラー不安定と細胞状対流
317. *和方吉信(九大・理), 山形俊男(九大・応研)：大気海洋結合過程のモデリングについて
318. *玉木克美・宇加治一雄(福岡大・理)：回転水槽の実験で観測される tilted-trough vacillation.
319. 野田 彰(気研・予報)：流体力学の変分原理—任意座標系のGLMへの応用—
320. 矢野順一(京大・理)：木星型大気の力学についてのいくつかのコメント(その2)—支配方程式系について—

中層大気

座長 佐藤 康雄

321. 神沢 博(極地研)：南極中層大気の内重力波—気象ロケット連続発射実験観測速報—
322. 廣田 勇・廣岡俊彦・*大野裕一(京大・理)：衛星観測から得られる低緯度成層圏の地衡風とロケットゾンデデータとの比較
323. *牛丸真司(名大・水圏研), 山中大(宇宙研), 田中 浩(名大・水圏研)：MUレーダ1週間連続観測資料の解析：Ⅲ. 鉛直波長0.7~3km帯の「波」の活動度
324. 山中大(宇宙研), 日中大洋横断気球実験班(宇宙研・中国科学院), MUレーダ観測グループ(京大・超高層)：東支那海横断気球追尾による内部重力波のLagrange的観測およびMUレーダによるEuler的観測との比較(速報)
325. *深尾昌一郎・佐藤 亨・津田敏隆・加藤 進(京大・超高層)：MUレーダーによる運動量フラックスの測定
326. *村岡良和(兵庫医大・物理), 川平浩二(京大・理)：MUレーダーによる中間圏高度の風の観測
327. *呉 登華・宮原三郎(九大・理)：中層大気における自由Rossbyモード(16-day Wave)について
328. 高橋正明(九大・理)：赤道波動による熱帯下部成層圏の応答について
329. 関口理郎(気研)：南極のオゾン減少と成層圏気温の関係

大会第2日(11月6日)9時00分~12時00分

第1会場 大気汚染

座長 鶴 田 治 雄

127. *北林興二・林 正康・近藤裕昭・吉門 洋・蒲生 稔・田口彰一・水野建樹・山本 晋・下形茂雄・菅原 清・横山長之(公資研)：南関東浮遊粉塵立体調査
128. *林 正康・横山長之・山本 晋・水野建樹(公資研)：エアロゾルの空間分布(その2)
129. *北林興二・近藤裕昭・吉門 洋・横山長之(公資研)：複雑地形上の気流と拡散の風洞実験(5)
130. *横山長之・水野建樹(公資研), 鈴木基雄(気象協会)：接地安定層中における波動発生時の水平方向の拡散について

131. *横山長之・水野建樹(公資研), 鈴木基雄(気象協会)：ランダムウォークモデルを用いた拡散シミュレーション
132. *吉川友章・田中豊頭・成瀬 弘・里村雄彦(気研・応用), 相川光明・藤島康夫(数理計画)：大気汚染物質の沿岸海上での物理的挙動について(2)
133. *村尾直人・太田幸雄(北大・工)：札幌における春季のオゾン濃度
134. 鶴田治雄(横浜市公害研)：沿岸域から内陸域への大気汚染物質の輸送および変質過程(その3)—内陸盆地での山谷風に伴うオゾンの輸送・除去過程—
135. 渡辺 明(福島大・教育)：内陸盆地での高濃度オ

キンダント出現

136. 野本眞一 (気象協会・研究所): 中部日本における視程の経年変化と地域分布

第2会場 エアロゾル

座長 笹野泰弘

225. M.P. McCormick, *O. Uchino, L.R. McMaster, W.P. Chu (NASA・LRC, *MRI): SAGE II とライダーによるエアロゾル観測
226. *笹野泰弘・松井一郎・清水 浩・中根英昭 (国公研): 多波長レーザーライダー観測によるエアロゾルタイプの識別 (1)
227. 岩坂泰信・*荒木真一 (名大・水圏研): 圏界面付近の大気の動きと成層圏エアロゾル量の変化
228. *森田恭弘 (名大・空電研), 岩坂泰信 (名大・水圏研), 塩原匡貴 (気研), 神沢 博 (極地研): 南極大気中のミュー粒子の高度分布
229. *岩坂泰信 (名大・水研), 小野高幸 (極地研), 野村彰夫 (信大・工): 南極成層圏エアロゾル量の春の変化: 南極オゾンの減少 (オゾンホール) と関連して
230. *谷口 恭・菊地勝弘 (北大・理), 佐藤 昇 (大阪府科学教育センター): カナダ北極圏におけるエアロゾル濃度の変動について
231. *岩坂泰信・岡田菊夫・武田喬男・小野 晃・今須良一・荒木真一・中井専人・大和政彦・岩崎博之・伍培 明・太田啓一・金森 悟・金森暢子 (名大・水圏研), 佐藤公喜 (愛知県公害調査センター・名大水圏研): 1986年の黄砂観測 (レーザー観測及びその他の観測の概要)
232. *岡田菊夫・成瀬 弘・田中豊頭・根本 修 (気研・応用), 岩坂泰信・伍培 明・小野 晃 (名大・水圏研), Robert A. Duce・植松光夫 (ロードアイランド大), 荒生公雄 (長崎大): 大気中に浮遊する個々の黄砂粒子の性状
233. 伍培 明・小野 晃 (名大・水圏研): 名古屋及びその周辺における Nitrate 粒子の挙動 (夏のケ

ース)

第3会場 大気大循環

座長 野田 彰

330. 秋山孝治 (京大・防災研): ENSO とテレコネクションとインデックス・サイクルの関係
331. *岩崎友彦・廣田 勇 (京大・理): 北半球対流圏ジェットに対する ENSO の影響 (I) — 波の立場からのアプローチ —
332. 時岡達志・山崎孝治・*尾瀬智昭 (気研・予報): MRI・GCM-I の低緯度の降水特性
333. 廣岡俊彦 (京大・理): 自由振動モード・ロスビー波の立体構造とその平均場との関係
334. *塩谷雅人・余田成男・廣田 勇 (京大・理): 南半球対流圏における平均風の長周期変動と波の活動性との関連について
335. 佐藤康雄 (気研・予報): FGGE 年冬季中・高緯度対流圏における波動・平均流相互作用の解析(続) — エリアアセスン・バームフラックス診断 —
336. *木村富士男・吉川友章 (気研): ルーチン用全球スペクトルモデルを利用したチェルノブイリ原発からの放射性物質の地球規模拡散シミュレーション
337. *二階堂義信・千葉 長 (気研・予報): 波数切断の違いによるスペクトルモデルの予報系統誤差の相違について
338. *増田善信 (元気研), 大西晴夫 (気研・台風): 正二十面体-六角形グリッドを用いた地球上のプリミティブ・モデルの積分 (第二報)
339. *岩嶋樹也・畑澤宏善・山元龍三郎 (京大・理): 時間・空間スペクトル法によるエネルギー平衡気候モデル—季節変化, 東西・南北非対称性の影響評価と多重解の検討—
340. *阿部 豊・松井孝典 (東大・理): 地球と金星の原始水蒸気大気の進化—Non Gray Calculation—
341. *阿部 豊・松井孝典 (東大・理): 厚い、 H_2O-CO_2 大気の放射対流平衡構造の計算について

大会第3日 (11月7日) 9時00分~12時30分

第1会場 接地境界層

座長 岩谷 祥美

137. *高原浩志・樋口敬二 (名大・水圏研): 積雪域の境界付近に存在する水面が融雪におよぼす影響
138. 近藤純正・*山崎 剛・萩野谷成徳 (東北大・理):

積雪面温度・凍結深予測型の融雪モデル

139. *西村浩一・前野紀一 (北大・低温研): 雪面に作用するシア応力の測定—吹雪の発生に関する風洞実験 (I)—
140. *三上正男・戸矢時義 (気研・応用), 安田延壽 (気

- 大)：草地からの蒸発量—底層ダルトン数について—
141. 光田 寧・文字信貴(京大・防災研), 佐橋 謙・塚本 修・米谷俊彦・*大滝英治(岡山大)：大気中の炭酸ガス濃度変動の国際比較観測
142. *堀 晃浩・星野勲史・伊藤昭三(阪府大・工)：2次元の丘を越える流れにおける渦度の直接測定(風洞実験)
143. 内藤玄一(防災センター)：海洋上における強風時の乱流特性(Ⅲ)
144. *米谷俊彦(岡山大・農生研), 大滝英治(岡山大・教養)：植物群落上の乱流特性について(22)
145. 松岡春樹：一定熱フラックス層のエントロピー場及びその温度場との関係の一考察
146. *兼綱考紀(東和科学), 福岡義隆(広島大)：逆転層高度変化に及ぼす諸気象要素の影響について
147. 岩谷祥美(日大・生産工)：空間構造をもつ多次元風速変動のシミュレーションの具体化ともなう問題について
148. 板宮憲一・増田幸一(統計算流体力学研), 白山晋(東大・工), 桑原邦郎(宇宙研)：直接差分法を用いた複雑地形での風のシミュレーション(風洞実験の再現に向けて)(Ⅰ)
149. 増田幸一・板宮憲一(統計算流体力学研), 白山晋(東大・工), 桑原邦郎(宇宙研)：直接差分法を用いた複雑地形での風のシミュレーション(風洞実験の再現に向けて)(Ⅱ)

第2会場 総観規模現象

座長 下山紀夫

234. *加藤内蔵進・堤 雅也(鹿児島地台), 黒田友二(気大)：梅雨前線活動とモンスーンについて。
Ⅰ. 大陸の前線帯付近の下層風系の変動
235. 山中大学(宇宙研)：盛夏季南日本付近の上部対流圏に見られる5~10日サイクルの風向回転について
236. 白木正規(気研)：JMA客観解析値による運動エネルギーの解析
237. *麻生 正・大沢和裕・竹内義明(衛星センター)：衛星雲画像による雲型判別の精度向上について—雲特徴パラメーター—
238. *旭 満・牧野野雄・広田道夫・佐々木 徹(気研・高物)：冬期の輪島高層観測資料の先行性について

239. 佐藤公喜(愛知県公害調査センター, 名大・水圏研)：上層大気空気の塊の下層への輸送過程の解析
240. 大友 猛(名瀬測), *柴田清孝(気研)：東北地方の下層における層厚と風との関係について
241. 高藪 出(東大・海洋研)：温帯低気圧の発達に及ぼす有限振幅の初期じょう乱の効果

中小規模現象(Ⅰ)

座長 下山紀夫

242. 猪川元興(気研・予報)：非静水圧・音波除去(an-elastic)方程式系による数値積分法と非静水圧・音波包含(elastic)方程式系 semi-implicit 時間積分による数値積分法との比較
243. *栗原和夫・瀬上哲秀(気象庁・数値予報)：VFM・ルーチンモデルの改良の試み
244. Peter T. MAY (RASC), Susumu Kato (Kyoto Univ.)：VHF Radar observations at Adelaide, Australia
245. *小林文明・岩波 越・菊地勝弘(北大・理)：1985年9月10日, 北海道広島町に発生した竜巻について
246. *土井重行・倉橋和弘(名古屋電気通信工学院)：即応形降雨計観測による降雨強度の統計的性質

第3会場 大気化学

座長 広瀬勝己

342. *井上久幸・杉村行勇(気研)：大気中の二酸化炭素の $\delta^{13}\text{C}$ 及び $\delta^{18}\text{O}$ について
343. *広田道夫・村松久史(気研)：筑波における地表大気中の CH_4 濃度(Ⅱ)
344. *忠鉢 繁(気研), 梶原良一(高層气象台)：南極昭和基地におけるオゾン全量の減少傾向に伴う成層圏温の低下傾向
345. *村松久史・広田道夫・佐々木 徹(気研・高物)：成層圏から対流圏へのオゾンの流入—冬期と夏期の比較
346. *小島 浩・近藤 豊・高木増美・森田恭弘・岩田晃(名大・空電研), 村松久史・広田道夫(気研)：航空機観測用オゾン測定器の開発
347. 近藤 豊(名大・空電研)： NO_2 光解離を利用した対流圏 NO_x 測定器
348. *近藤 豊・岩田 晃・高木増美・森田恭弘(名大・空電研), W.A. Matthews (PSIR, NZ)：成層圏 NO (一酸化窒素)の日変化の測定—MAP/GLOBVS NO_x Campaign—

349. *鶴田治雄・草野 一・渡辺善徳(横浜市公害研):
大気バックグラウンド汚染観測地点(岩手県綾里)
における降水と乾性沈着物質中の水溶性成分の挙
動(その1)
350. *鈴木 款・井上久幸・杉村行勇(気研・地球化
学):大気中の放射性クリプトンの分布
351. 岩本智之(京大・原子炉):熊取に到達したソ連
原発事故による放射能
352. *青山道夫・広瀬勝己・井上久幸・鈴木 款・杉村
行勇(気研):チェルノブイリ原発事故に由来す
る放射性物質の日本周辺における挙動
353. 青山道夫・*廣瀬勝己・杉村行勇(気研):チェル
ノブイリ原子力発電所に由来する人工放射性核種
の粒径分布
354. 川平浩二(京大・理):低緯度中間圏における
[NO]の日々の変動
355. *川本洋人(京大・理),小川俊雄(高知大・理):
下層大気における負イオン化学組成のモデル計算

大会第3日(11月7日)13時30分~17時00分

第1会場 気 候

座長 福 山 薫

150. *菊地原英和・吉田作松・篠木誓一(気象協会)
:わが国における日射気候区の設定
151. 大井正一(理大):成層圏天気図の解析(10月)
C 2
152. *菊地時夫(高知大・理),上田 豊(名大・水圏),
奥平文雄(岐阜県),神山孝吉(京大・理),島本
高志(横浜地台):南極・東クイーンモードラン
ド内陸部における気象観測
153. 藤吉康志(北大・低温研):パタゴニア(チリ)の
サン・ラファエル氷河末端における降雨特性
154. *三上彦岳(お茶大),野上道男・田上善夫(都立
大):エルニーニョ期間中におけるペルー北部の
降水パターンの変動
155. 小司慎教(静岡地台),*柴田清孝(気研):北日本
の夏季気温と北西太平洋の海面水温との関係につ
いて
156. 石原靖文(東海大・海洋研):冬季における北太平
洋の海面水温の変動について
157. 栗原泰子(筑波大・地球科学):北日本の夏季気温
と東部シベリアの気温・雪水面積の関係について
158. 真野裕三(気研):日本における1月降水量の地域
性の長期変動
159. *安成哲三(筑波大・地球科学),山根理子(筑波
大・自然):季節サイクルの変化からみた気候変
動(I)日本の地上気温による試み
160. *山元龍三郎・岩嶋樹也・Sanga, N.K.(京大・気
候),星合 誠(愛知学院大・教養):大気大循環
の気候ジャンプ
161. 正村史朗(総合科学研):「太陽活動のM法則」と
「気象の120年周期」について(続)一干周期と支

周期の新しい科学的側面の発見一

162. 水越允治(三重大・人文):15世紀における近畿・
東海地方の梅雨期間の変動傾向
163. *福山 薫(三重大),柏谷健二(神戸大),山本淳
之(大阪電通大):琵琶湖湖底堆積物粒度の永年
変化と古気候変動(4)
164. 森山 茂(日大・生産工):地球型惑星の準周期的
気候変動:更新世における振動気候の出現につ
いて

第2会場 中小規模現象(II)

座長 栗 原 和 夫

247. 檜尾守昭(気研・台風):寒冷前線に伴う定常な下
層ジェットの移動座標系から見た維持機構
248. 秋山孝子(気研):1982年7月の極東域における
雲量のスペクトル解析
249. 二宮洸三(気象庁・数値予報):梅雨前線帯雲ゾ
ーンの雲量および南北変動
250. 武田喬男・*東 善広(名大・水圏研):梅雨前線
帯のメソスケールの雲群の特徴について—1985年
と1986年の状況の比較—
251. 秋山孝子(気研):梅雨前線活動の周期的変動と
じょう乱. II 相対渦度場
252. *深尾昌一郎・佐藤 亨・津田敏隆・加藤 進(京
大・超高層),山中大学(宇宙研):MUレーダー
による梅雨前線の観測
253. *栗原和夫・上野 充(気象庁・数値予報):1983年
7月豪雨時の前線帯のシミュレーション
254. *二宮洸三・栗原和夫(気象庁・数値予報):Cloud
cluster から発達した小低気圧の予報実験
255. *平沢正信・吉住禎夫(気研・予報):停滞前線に伴
う rainbands の2次元数値実験

256. *永田 雅・吉住禎夫 (気研・予報): 日本海側の降雪の数値シミュレーション VI - 収束雲帯の変動と総観場の変化-
257. 吉住禎夫 (気研・予報): 新潟県の里雪型降雪時のレーダーエコー分布-1984年1月25日の場合-
258. *武田重夫・藤部文昭・森 一正 (気研・予報): 冬の北陸地方における「レーダーエコーの移動速度」と 850 mb 風の比較
259. 武田喬男・*中井専人 (名大・水圏研): 中規模雲群のライン状クラスターとそれに伴う降雨の解析
260. *村上正隆・新野 宏 (気研・物理): 線状降水雲の組織化に関する研究 (その1)

第3会場 放射

座長 内山 明 博

356. *増田一彦・高島 勉 (気研): 海面直上・直下の放射輝度と偏光度
357. 田中正之・*小川 浩 (東北大・理): 放射計算における偏光の影響の補正について
358. *早坂忠裕・中島映至・田中正之 (東北大・理): 対流圏エアロゾルの粒径分布と成層状態 (オリオールメーターとパーティクルカウンターの比較)
359. 竹内義明 (衛星センター): 放射伝達問題における球面関数展開法の計算手順の改良
360. 高山陽三 (気研・衛星): AVHRR 赤外輝度温度と可降水蒸気量との関係
361. *渡辺清光・新井重男 (気象協会), 河野幸男・浜守一 (小笠原計器製作所): 水晶型放射收支計について

測器・応用

座長 岩 坂 泰 信

362. *青柳二郎・松浦和夫・横山辰夫 (気研・衛星): 2点法によるドップラー測風方式 (一様水平風の場合)
363. *岡田芳隆・内野 修・田端 功・甲斐憲次 (気研・衛星): ライダーアナログ観測における電氣的雑音
364. 坂上公平 (金沢地台): 石川県における昭和60年梅雨期の大雨と山がけ崩れとの関係
365. 西村浩一・前野紀一 (北大・低温研), *和泉 薫・小林俊一 (新大): 新潟県能生町柵口表層雪崩発生時の気象
366. *真鍋大覚・佐藤洋子 (九大): 古木老樹の生長曲線に現れる地震周期
367. *真鍋大覚 (九大), 志賀正信: 地震前後の大気の脈理と周期

学会刊行物ニュース

日本気象学会 気象集誌

第II輯 第64巻 第4号 1986年8月

(詳しい目次は10月号に掲載します)

編集後記 (編集委員会寸描): 9月からメンバーが一部交代するのに先だって, 8月の編集委員会にはK氏とS氏が出席された。K氏は「新企画」と称する資料を用意され, 主に, 国内外の情報面の充実を強調された。提案のみに終わらず自らその任を引き受けられ, また最前線の研究情報が集積すると思われるS氏も進んで分担されることになった。

こうした企画は, 多数の会員の積極的なご協力があっ

て初めて実るものである。そうでないと, 編集委員の負担が増えるだけで長続きせず, 挫折感だけが残ることになる。

次号の「天気」が早く読みたくなるような, そんな待ち遠しい雑誌にするために, 編集委員の方々と会員の皆様のご協力をお願い致します。

(書記)